

全国保健師長会
群馬県支部 **ミニつうしん**
令和3年度 第1号

発行日

令和3年9月 1日

支部長 船越 正枝



支部長あいさつ

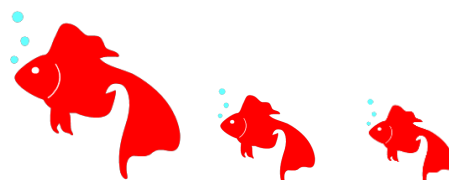
支部長 船越 正枝

令和3年度全国保健師長会群馬県支部長を務めさせていただくことになりました。昨年度の副支部長に引き続くいのちの捧命となりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年の支部活動ができず経験のないままの就任となり力不足ではありますが、役員一同協力して責務を果たしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

さて、令和3年度総会も書面開催となり、皆様と顔を合わせる機会がないままスタートいたしました。また、北関東・甲信越ブロック研修会も昨年度と同様に事例集を作成することになりました。このような中、群馬県支部研修会においては、新しい方法を取り入れ何か出来ないものかとの思いから、Z o o mによるオンライン研修の実施に向けて検討しております。日時や内容が決まりましたらお知らせいたしますので、皆様ぜひ御参加ください。

現在、感染予防対策を講じての保健事業の実施に加え、急激な感染拡大となっている新型コロナウイルス感染症第5波への対応やワクチン接種業務、また、昨年から新たに発生した豚熱（CSF）への出動など多忙な毎日をお過ごしのことと思います。今回のミニつうしんは、これらの対応について、県、中核市、町の取組について掲載していただきました。皆様の参考にしていただけるものと思います。

今年度もコロナ禍のもと、先の読めない状況が続きますが、全国保健師長会活動テーマ「未来を創造する公衆衛生看護活動の展開～保健師の原点から住民とともに創る未来～」につながる支部活動が出来るよう努めていきたいと思っておりますので、今後とも、会員皆様の御協力をお願いいたします。



支部長退任のあいさつ

こころの健康センター 高橋 雪子

令和元年、2年と2年間支部長を務めさせていただきましたが、令和2年度の1年間は、新型コロナウイルス感染症という未知なる感染症との対応に1年間振り回され、保健師長会の活動としては、何もできないまま支部長を退任することになりましたこと、少しばかりこころ残りとなっています。

令和元年度は北関東甲信越ブロック別総会、研修会に参加、また全国の支部総会にも参加させていただき、全国の保健師のみなさまから様々な情報や元気をいただき、全国広けれども保健師の熱意、根ざしているものは同じなのだと感じ、よい経験をさせていただきましたこと深く感謝申し上げます。今後は一会員として協力していきたいと思います。2年間ありがとうございました。



豚熱（CSF）対策関係

CSF（豚熱）対策における救護所の設置について

群馬県総務事務管理課 狩野 恭子

CSF（豚熱）は、CSF ウイルスを原因とする豚、いのししの熱性伝染病で、群馬県ではR2年9月に高崎市、R3年4月に前橋市、そして8月に桐生市で発生しました。

人に感染することはありませんが、治療法が無く、強い感染力と高い致死率が特徴で、発生農場の豚は全て殺処分とし、その後は埋却しウイルスの封じ込めを行います。

この防疫作業には、県職員の他、国支援チーム、自衛隊、市町村、JA職員、関連業者等多くの方が従事しますが、県では、防疫作業従事者が体調不良を起した際に、応急処置等の対応ができるよう、救護所を設置しました。

救護所での実際の対応としては、慣れない作業による体調不良、転倒や怪我、熱中症症状等様々でしたが、必要な場合には受診調整等も行いました。

先日桐生市で発生した際は、8月ということで正午から夕方の作業は実施しませんでした。通常防疫体制は24時間体制を基本としています。救護所も24時間体制で設置しますが、発生農場の規模や立地によっては防疫作業が延長するため、職員のみでの救護所運営は、マンパワー的にも厳しく多くの課題が残っています。

まずはCSFの発生がないことを祈るばかりですが、救護所の設置については今後、他部局とも検討していきたいと考えています。

なお、救護所の急な設置にもかかわらず、ご協力いただきました高崎市、前橋市、桐生市の保健師の皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。

CSF（豚熱）対策における防疫業務に従事して思うこと

高崎市保健所健康課 市川いづみ

令和2年9月26日夕方、高崎市内で豚熱の発生が確定し、翌朝から殺処分が始まること
が決定、群馬県から高崎市へ保健師の応援要請がありました。応援内容は、殺処分に従事
する県職員等の健康調査と救護で、2人ずつ3交代の24時間体制で始まり、10月9日ま
での13日間延べ51人の市保健師が従事しました。健康調査は、県作成の健康調査票と判断
基準が準備されていたので、通常業務と同様な対応で従事できました。

過去に県の鳥インフルエンザ防疫業務の演習に参加していたので、イメージが持て、準
備をする上で参考となり、健康危機管理業務では日頃の準備が重要であると再認識しまし
た。また、現場に出場する職員の他に、全体を調整する職員が必要だと感じ、豚熱、鳥イ
ンフルエンザの他、災害対応時のシフト表も全体を調整する職員を配置することにしまし
た。

今回の豚熱対策における防疫業務に従事したことで、多くのことを学ぶことができました
ので、今後の保健師活動に活かしていきたいと思います。

CSF（豚熱）対策に関わって

前橋市保健所保健総務課 樋口 早苗

4月1日、新年度のスタート、市農政課から「豚熱の抗体検査が陽性になった。準備を
しておいてほしい。」という第一報が入りました。まだ、体制が整っていない、新型コロナ
ウイルス感染症もくすぶり出し、感染拡大が始まろうとしていた時期でした。

特定家畜伝染病正副班長会議が開催され、状況が伝えられましたが、その後の情報が錯
綜し、いつ開始なのか、正確な情報がないまま、保健師の調整を行うことになりました。
Goサインがなく、何度も出動できる保健師の調整を行いました。結局、県の保健師から
情報を得、上司に伝え、体制を整えましたが、情報共有、連携の重要性を実感しました。

事前に考えていたローテーション表は、いつも同じ所属が準夜勤、夜勤にあたり、不都
合が生まれました。修正しましたが、準夜勤、夜勤に従事できる保健師は限りがあり負担を
かけることになりました。このまま長期戦になると、従事できる保健師のローテーション
が困難と思っていたところ、作業の目途がつき終了となりましたが、保健師の協力のあり
がたさを知ることになった体験でした。

業務内容は、殺処分に従事する職員の健康チェック、体育館内の環境整備、作業から戻
ってくる職員への言葉かけや軽食配りでした。作業職員の出入りがない時間帯は特に行う
ことがなく、合間の時間帯の使い方など課題もありましたが、6日間、延べ32人の保健
師で従事させていただき、貴重な経験となりました。

新型コロナウイルス感染症関係

新型コロナワクチン接種の活動について

大泉町健康福祉部健康づくり課 持田 恵理

新型コロナウイルス感染症対策については、これまでに経験したことの無い課題に日々直面し、悩みながら対応しています。

新型コロナワクチン接種の実施に関しては、これほどまでに対象者が多く（全住民）、短期間（年度内に2回接種）で実施するという業務は経験したことはありません。このミッションを果たすために安全で迅速に効率的かつ効果的に実施することは、保健活動の総合力を求められているのだと感じています。例えば、地域の特性を考慮した上で実施計画を作成し、組織内外のステークホルダーと調整を行い合意形成を図ること、予算を確保し、円滑な運営を行う中での業務などが該当します。

ワクチン事業を実施している中でのメリットは、地域にいる医療機関のスタッフ等と同じ目標に向けて取り組んでいることで顔の見える関係の構築がされ、連帯感を日々感じていることです。この連帯感は、連携の基盤になるもので今後も本地域で保健活動を行なっていく上で財産になることと思います。

まだまだミッションクリアとはなっていませんが、これがクリアとなった時には、この経験を活かし、また新たな保健活動が展開できるのではないかと期待しています。その日が来るまで頑張っていこうと思います。

総会報告

令和3年度全国保健師長会群馬県支部総会

日時：令和3年6月26日（土）

場所：ぐんま男女共同参画センター 大会議室

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、総会は書面での開催となりました。資料の送付後、会員の方からの意見等は特にありませんでしたので、総会資料のとおり承認されたこととします。

今年度の新役員です。



支 部 長	船越 正枝	(桐生市)
副支部長	永井 佳美	(群馬県こころの健康センター)
書 記	田村 陽子	(渋川市)
会 計	吉井 真美	(前橋市)
監 事	加藤 博子	(伊勢崎保健福祉事務所)

<どうぞよろしくお願い致します>